

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 533

事務事業名	放課後子ども教室推進事業
-------	--------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	教育委員会		
課名	社会教育課		
課長名	柳原 寅雄	内線	84-156
担当者名	白濱 幸	内線	84-154

基本目標		人を育むまち
政策	010104	子育てしやすいまちづくり
施策		子育てと仕事の両立
関連施策		

会計	一般会計		
款	10	教育費	
項	5	社会教育費	
目	1	社会教育総務費	
事業コード	120000	放課後子ども教室推進事業	

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	誰(何)に対して事業を行うか			市内の小学生		
意図	対象をどのような状態にしたいか			子どもたちの安心・安全で豊かな放課後及び週末の活動場所を提供し、教育活動推進員(学習アドバイザー)等の地域のスタッフの指導を受けながら、学習活動を行うとともに様々な体験活動や交流活動等を実施し子どもたちの健全な育成を図る。		
事業概要	意図を達成するために実施することは何か			<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の空き教室…宿題、漢字・計算ドリル、プリント学習、読書、工作、英会話学習等</li> <li>・屋外での学習…三浦野性の森、横山頭山荘等での野外体験活動(キャンプ、凧作り、秘密基地作り、竹を使った道具作り等)</li> <li>・地域体験学習…松原宿寺子屋塾での学習(書道、折り紙、茶道、郷土史学習、昔遊び、自然観察、調理体験等)</li> </ul>		
事業期間	平成 19 年度	～	平成 年度	実施方法	補助	
根拠法令、要綱等	長崎県放課後子ども教室推進事業費補助金交付要綱、ながさき土曜学習推進事業補助金交付要綱					
国・県補助事業に係る本市単独施策						

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 放課後子ども教室の設置数	計画値	8	7	6	7	
		実績値	8	6	7	8	
	達成度	%	100.0%	85.7%	116.7%		
	② 放課後子ども教室の開催日数	計画値	120	120	120	120	
実績値		164	158	174			
達成度	%	136.7%	131.7%	145.0%			
成果指標	① 放課後子ども教室への児童登録者数	計画値	200	200	200	200	
		実績値	212	158	174	217	
	達成度	%	106.0%	79.0%	87.0%		
	②	計画値					
		実績値					
	達成度	%					

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	1,663	2,142	1,380	3,125	3,513	3,513	3,513	0
国庫支出金								
県支出金	1,108	1,426	1,110	1,873	2,106	2,106	2,106	
地方債								
その他								
一般財源	555	716	270	1,252	1,407	1,407	1,407	
② 人件費(千円)	2,456	2,363	1,968	2,003	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.30	0.30	0.27	0.27	放課後子ども教室の設置・運営	放課後子ども教室の設置・運営	放課後子ども教室の設置・運営	
時間外勤務(時間)	36	48	32	20	放課後子ども教室の設置・運営	放課後子ども教室の設置・運営	放課後子ども教室の設置・運営	
嘱託等人数(人)					運営委員会の開催	運営委員会の開催	運営委員会の開催	
フルコスト(①+②千円)	4,119	4,505	3,348	5,128				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成27年度も引き続き退職校長会など地域のマンパワーを活用し、放課後の空き教室等で宿題・読書、昔遊びや工作などを取り入れた子ども教室を5校開催した。また、地域密着型の1教室、野外体験型の教室を1教室開催した。参加した子どもたちも楽しんで活動でき、保護者からの評価もよかった。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	国・県からの補助金の動向及びスタッフの高齢化に伴う新たなスタッフの確保が課題である。また、放課後児童クラブとの関わり方について今後検討が必要となってくる。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	子どもたちの安全・安心な居場所づくり(特に学校施設を利用したもの)について、地域・家庭の教育力が低下している現状で行政に求められているものが大きく、必要性は高い。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市内全域が事業対象となっていることから、積極的に関わっていく必要がある。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	野外体験学習では、日常では経験できない活動が行われ、学校の余裕教室等を使った教室では、元教職員等がスタッフということもあり、有意義な学習の指導が行われている。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	謝金や消耗品等、放課後子ども教室運営のための最低限の経費を計上しており、これ以上の削減は困難である。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	拡充
--------	----

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	子供たちの安心、安全な居場所づくりと、平成32年度からの小・中・高等学校を通じた英語教育の充実・強化を進める国の取り組みに向け、小学生(3年生以上)を対象にした英語学習を行う週末の教室を開設する。日程は、5月から9月までの前期、11月から3月までの後期、月1回(土曜日または日曜日)、1回あたり2時間程度、募集児童数は20～30人、指導者はALT6人程度を考えている。 活動の内容は、日常の英会話、自国の料理・遊び・スポーツ・音楽、絵本の読み聞かせ、劇や歌などの表現活動を考えている。(前後期共通)
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	小学校における英語の教科化に目を向けた教室であり、英語に楽しく触れることで子どもたちの苦手意識を取り除くことができる。市民のニーズも高いと考える。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象	今後の方向性	拡充
	終期設定				終期設定		
	意見等				内容	担当課の提案のとおり、事業の拡充を認める。	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。